

## L-2 東松島市浜市

2012年1月13日(金)

---

報告者名	赤尾 智宏	被調査者生年	生年未確認(男)
調査者名	木村 敏明	被調査者属性	東松島市教育委員会 生涯学習課文化財班長
補助調査者	赤尾 智宏		

---

### 話者の被災状況

話者は宮戸島で被災した。津波によって道路が遮断され、一時島は孤立状態にあった。震災後しばらくの間、避難所対応に追われた。文化財関係の仕事が出来るようになったのは、最近のことである。

### 宮戸島と東松島市の集落

宮戸島は漁業が中心、大曲は漁村、野蒜は漁村が中心、昭和35年まで塩田が盛んだった。宮戸島には4つの集落があり、縄文館がある集落は内海であるため、2m以上の津波の浸水があったが、壊滅は免れた。一方、他の3つの集落は津波が直撃し、流出した。

### 浜市地区の概況

浜市地区は牛網地区と隣接しており、河口側が浜市、石巻側が牛網である。浜市には浜市漁があり、港養殖や漁で収入を得ている家もあるが、農家をしている家もある。浜市地区は一つの通り沿いに大きな屋敷が密集していた。話者は、小野から、浜市、矢本へと続く街道が関係しているのではないかと話者は考えている。昭和50年代に浜市地区の古民家調査を実施したときには、茅葺き屋根の家もあった。しかし、平成15年の宮城県北部沖連続地震で家を改築、修復した。死者はいなかったが、全壊、半壊の家屋が相当数あった。石巻、矢本、鳴瀬でも家屋の被害はひどかった。平成15年に修復してから、それほど時間が経たないうちに昨年の津波の被害を受けた。今回の被害は浜市地区住民にとって痛手となっている。

話者は、浜市の宗教施設は石上神社、津龍院などがあると、『鳴瀬町誌』を参照しながら説明した。

### 浜市地区の被災状況

浜市地区には津波で流されなかった住居がいくつかあり、生活をしている人がいるかもしれないが、正確にはわからない。今回の津波の被害を考慮すると、浜市の海に近い場所で暮らすことは出来ない。

復興計画として、住居が残っている浜市地区の北側に住居を造成するか、移転先を探すか、明確な決定はなされていない。仮設住宅は、45号線沿い駅前一丁目にあるが、浜市地区の人は、必ずしもその仮設住宅に住んでいる訳ではなく、市外で生活している人もいる。

浜市小学校は、小野地区に建設されたプレハブに昨年末に移動し、今年の新学期よりプレハブ

で学校が始まる。

### 潮垢離の震災の影響

昨年3月19日、潮垢離に関する会合が、教育委員会、浜市の部落住民ら関係者によって開かれることになっていた。文化庁関係者が来て、映像記録も撮る予定であった。

浜市でご神体を泊める鹿野家は、住宅ごと津波で流され、一人暮らしをしていたおばあさんが、今回の震災で亡くなった。鹿野家の身内は浜市地区の周辺に住んでおらず、孫は遠くに住んでいる。ご神体の入った神輿をのせる臼も一時流出した。

臼を探してほしいと呼びかけたところ、瓦礫撤去の業者、消防団によって、潮垢離で使用するものではないが、農家の各住民宅で使用していた臼が、複数話者に届けられた。

6月に瓦礫と混じり合った状態で、鹿野家から200～300m離れたところで半分に割れた臼が見つかった(写真1、2)。平成12年に撮影した臼の写真と照合して、潮垢離で使用する臼であると話者は判断した。臼は半分に割れてしまい、残りの半分はまだ見つからない。ほとんどの瓦礫が撤去済みであるため、発見不可能である。重機が入る前に言ってくれないと無理だともいわれたが、たまたま入っていなかった場所でみつかった。神さまのおかげとしか思えない。

塩垢離に最も詳しい人が今回の震災で亡くなった。情報提供者のA氏は、前回の塩垢離参加者である。本人は、「俺もあんまり詳しくない」と言っていたようである。A氏は、浜市地区の区長である。

### どや節

潮垢離以外にも浜市集落にはドヤブシという行事があり、保存会もある。震災後も運動会で子ども達が踊った。

### 野蒜港

野蒜港は、明治11年に着工が開始された、話者によると、日本における最初の近代的な港であり、神戸、横浜よりも早い。野蒜港の着工は、明治の始めに東北開発の足がかりとして始めら

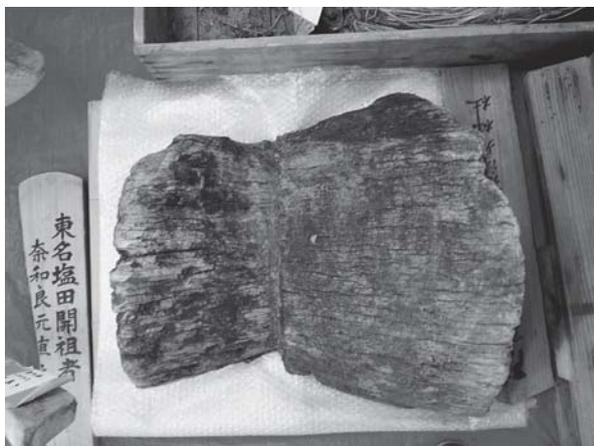


写真1 鹿野家の臼1



写真2 鹿野家の臼2

れた。岩手、福島から運河で特産品を集積し、アメリカ諸外国へと輸出するという構想があった。野蒜港事業の計画者であったB氏は、着工の数ヶ月前に暗殺された。ヨーロッパの最新土木技術を取り入れた港であり、近代史、土木史において重要な港であると話者は考えている。

浜市の南側を流れる北上運河、鳴瀬川より松島湾へと続く東名運河は、野蒜港着工事業と関連して整備された。

明治15年に工事が終了するが、2年後の明治17年に台風によって港は壊れてしまう。台風の損害をきっかけに工事が中断されてしまう。

野蒜港も津波の被害を受けている。重要な遺跡なので保存したい。